



第36回

# ◀ ナショナル・トラスト全国大会 ▶

*National Trust Conference*

自然は人も地方も美しくする

## 報告書

2018年12月15日[土] |会場| としま産業振興プラザ(東京都豊島区)  
[主催] (公社)日本ナショナル・トラスト協会 [後援] 環境省、豊島区、日本ビオトープ管理士会  
[協賛] (株)竹中工務店、三井住友信託銀行、Dream World OHATA



全国大会は、年に一度、ナショナル・トラスト活動について、より多くの方々に知ってもらおうとともに、トラスト団体や支援者の皆様との交流を図るために開催しています。今回のテーマは「自然は人も地方も美しくする」。生活環境の変化に伴って、かつてあった自然と人々の暮らしとのつながりは、うすれてきています。そうしたつながりを、再び地域の人々や子どもたちに伝え、自然を守るための「人づくり」・「地域づくり」に取り組まれている方々のお話を聴くと共に、皆様にナショナル・トラストという選択肢について、より具体的に考えていただく機会として開催いたしました。

## プログラム

### | 第一部 |

14:00	開会挨拶	(公社)日本ナショナル・トラスト協会 会長 池谷 奉文
14:05	来賓挨拶	参議院議員・前環境大臣 中川 雅治 氏
14:10	来賓挨拶	環境省 大臣官房審議官 鳥居 敏男 氏
14:15	ナショナル・トラストについて	(公社)日本ナショナル・トラスト協会 事務局長 関 健志
14:30	トラスト団体の取組み①	「地域の宝・十二瀧を引き継ぐための活動」 NPO法人 いいろこ十二瀧を守る会 理事長 山崎 敬雄 氏
15:00	トラスト団体の取組み②	「ローカルトラストの挑戦;人づくり、地域づくり、組織づくり」 (公財)トトロのふるさと基金 理事長 安藤 聡彦 氏
15:30	休憩	
15:40	講演	「森は海の恋人 人の心に木を植える」 NPO法人 森は海の恋人 理事長 畠山 重篤 氏
16:45	閉会挨拶	(公社)日本ナショナル・トラスト協会 副会長 漆畑 信昭

### | 第二部 |

17:15～	交流会
19:00	

本日はお忙しい中、全国からナショナル・トラスト全国大会のためにお集まりいただきありがとうございます。本大会の開催にあたり、ご後援いただいた環境省、豊島区をはじめ、ご協賛いただいた三井住友信託銀行、竹中工務店、そしてご支援いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

日本でナショナル・トラスト活動が始まって54年目になり、各地域で様々なトラスト活動が展開されています。当協会はこれらのトラスト団体と協力しながら活動しており、協会自身も全国に51ヶ所、1732haのトラスト地を所有しています。

さて、最近、過去27年でドイ

ツ国内の昆虫の約80%がいなくなったというニュースがありました。いくつかの原因が考えられるのですが、ドイツ政府はすぐに対策を立てて動き出したということです。ひるがえって日本はどうかというと、そもそもそういった調査がされていないようなのですが、実感としてはドイツ以上に減少しているのではないかと思います。花粉を媒介する昆虫が減少すると、草や木の実が成らないので、これから問題が起きるのではないかと危惧しています。また、全国の野鳥も大変減っていて、北海道から沖縄まで昔に比べて野鳥の声がしないという現状があります。

そのような中で、私たちは全国

開会挨拶



(公社)日本ナショナル・トラスト協会  
会長

池谷 奉文

組織として気を引き締めてがんばってトラスト活動を進めていきたいと考えています。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

第36回のナショナル・トラスト全国大会が大勢の皆様方にご参加いただき盛大に開催されますこと、心からお祝いを申し上げます。

私の義理の父親である原文兵衛が37年前に環境庁長官を務めていまして、当時の資料によると、ナショナル・トラスト運動に大変関心を持って、全面的に支援していきたくて書かれております。それから36年経って私が環境大臣を拝命したわけですが、ナショナル・トラスト運動というのは、将来世代に美しい自然を残すための大きな礎だと思っております。持続可能な社会をつくる、そしてこの素晴らしい生命の星、地球を守り、将来世代もこの地球上で快適に生活できるようにしていく、こ

れが現在を生きる我々に課せられた使命だと思っております。そのためには、政府だけでは十分なことできません。経済界はじめいろいろなNGO、NPOのご協力をいただいて、世界の国々が連携をして人類全員が意識を持って進んでいかななくてはならないと痛感しております。

ナショナル・トラスト運動がそれぞれの地域で小さな試みから始まって、大きく育って、連携をして、日本全体の様々な美しい自然を将来に残すという大きなうねりになっていくと期待しております。皆様方のご協力と今後のご活動、ご活躍を心より祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



参議院議員・前環境大臣

中川 雅治 氏



今年で36回目になります全国大会の開催、誠にありがとうございます。

平素より、全国各地で、地元の地域の自然を大切に育ててこられた方々、またその全国的な取りまとめをしている日本ナショナル・トラスト協会の活動に、改めまして敬意を表したいと思います。我々が暮らしていく上で、あるいは社会が営まれていく上でも、自然が基盤の上に我々が生かされている、そういった謙虚な気持ちを常に持ち続けなければいけないと思っています。今年の4月に第5次環境基本計画が閣議決定されま

した。その中で、「地域循環共生圏」という考え方を示しております。地域の自然資本、資源を大事にしながら森里川海、あるいはエネルギーを地産地消し、その地域で経済を回していく、あるいはつながりをもってお互いに助け合っ地域を支え合っていくことで、災害が起きた時にも自立した強い地域、社会をつくっていきこうと、全力を上げて取り組んでいるところでございます。

このナショナル・トラストの運動も、地域の自然を大切に育みながら、そこで得られる恩恵もあると思いますが、それを次の世代に

来賓挨拶



環境省  
大臣官房審議官  
鳥居 敏男 氏

引き継いでいくという意味で、非常に大事な活動だと思います。今日の大会で、地域の活動のつながりが、より確かなもの、強固なものとなって日本の社会が変わっていくことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

4

現在、全国組織である当協会の構成メンバーは32団体で、各地で様々なトラスト活動が展開されています。1964年に鎌倉でトラスト活動が始まって以来、50以上の地域でトラスト活動の輪が広がっています。今年、妻籠を愛する会が設立50周年、はちのへ小さな浜が設立30周年を迎えました。また5月4日のみどりの日に、共同通信の配信により各地方紙でナショナル・トラストの記事が一斉に掲載され、話題になりました。自然保護助成基金との共催による「ナショナル・トラスト活動助成」は14年目を迎え、今年度も募集を行いました。

当協会自らも2007年からトラスト地の取得を進めており、現在、全国に51カ所の土地を所有しています。北海道黒松内町にある「歌才湿原トラスト」では、今年も銀行の社員有志の皆様と保全管理作業を行い、沖縄県石垣島の



歌才湿原トラストでの保全管理作業

「白保アオサンゴ・トラスト」では、アオサンゴの海を守るトラスト地であることを示す看板を設置しました。2016年に取得した神奈川県横須賀市の「若芽の里トラスト」では、都市域に残る貴重な里



里山環境を再生中の若芽の里トラスト

ナショナル・トラストについて



(公社)日本ナショナル・トラスト協会  
事務局長  
関 健志

山環境を活かし、地元NPOと連携して小学生の体験フィールドとしての活用が進んでいます。トラスト地にかかる固定資産税など税金の問題については、引き続き各方面への働きかけを続けていきたいと思っています。

# 地域の宝・十二潟を 引き継ぐための活動



NPO法人 いいろこ十二潟を守る会 理事長 山崎 敬雄 氏

「いいろこ十二潟を守る会」は、新潟市北区で、大正から昭和にかけての阿賀野川改修工事によって残った三日月湖「十二潟」(約6ha)の自然保護活動を行っています。「いいろこ」とは、新潟の方言で「とてもよいところ」という意味です。平成19～20年に行った植生・生物調査では、十二潟には環境省の絶滅危惧Ⅱ類で、新潟県の絶滅危惧種に指定されているアサザやガガブタをはじめとする動植物161種が確認されまし



た。アサザは新潟県内では最大の群落で、花の形は「等花柱花」という、日本では霞ヶ浦とここにしかない珍しい種類のものです。

昭和35年頃までは、地域の子どものための遊び場や農業の貴重な水源となっていた十二潟ですが、改修により廃川となった後は周辺

住民への払い下げが進み、産廃処理場としての埋め立てが進むなど、その存続が危ぶまれました。そこで地元住民の手で地域コミュニティが立ち上げられ、昨年5月には、潟を取得して環境保全活動の充実を図ることを目的に「特定非営利活動法人いいろこ十二潟を守る会」が設立されました。地域の住民からの募金と企業や関係者からの寄付、それから自然保護助成基金と日本ナショナル・トラスト協会のナショナル・トラスト活動助成を受け、潟全体の6haのうち1.7haの潟を取得し、最初の大きな目的を達成しました。

一斉清掃、観察地と見学者用



デッキの整備、草刈り、観察会や学習会の開催など、年間を通して様々な活動を行っています。地元の小学生も一緒に観察会に参加し、自然に触れながらその大切さを学んでいます。彼らが今後、この貴重な自然を守り、大切なふるさとを守っていく担い手となってくれると信じて、今後も活動を続けていきたいと思っています。





## トラスト団体の取り組み②

ローカルトラストの挑戦；  
人づくり、地域づくり、組織づくり

(公財)トトロのふるさと基金 理事長 安藤 聡彦 氏

「トトロのふるさと基金」は1990年にスタートしたナショナル・トラスト団体です。東京都と埼玉県との境の狭山丘陵に位置し、東西に11km、南北に4kmほどあります。かつては武蔵野の雑木



林や農用地が広がっていましたが、1920年代頃からレジャー施設の建設、宅地造成などによる大規模

な区画整理が度々行われ、1980年代初頭には早稲田大学所沢キャンパスの造成などが行われました。次々と行われる開発を受け、この状況を止めるためにナショナル・トラスト活動を開始しました。

映画『となりのトトロ』では、狭山丘陵の風景が一部モデルになっていたため、宮崎監督に狭山丘陵を守るために「トトロ」の名前を借りられないか相談したところ、快諾していただきました。それから毎日のように電話が鳴り続け、約1年後には初の土地の購入を果たしました。市民団体のままでは



土地の登記ができないため、1998年にはトトロのふるさと財団、そして2011年に現在の公益財団法人トトロのふるさと基金となりました。

私たちの目的は、ナショナル・トラストの手法を用いてこの狭山丘陵及びその周辺地域を恒久的に保存することです。多くの方に協力いただいて、地価の高い地域ですが、48ヶ所、9haほどの土地を取得しました。そのうち4ヶ所は寄付で取得しました。会員の獲得にも力を入れています。

現在、資金確保や取得した土地・建物の維持管理、増える観光客への対応、組織の持続性を高めることなど、多くの課題があります。今後は「ローカル・トラスト」団体から「ナショナル・トラスト」団体として成熟していくために、国内外のトラスト団体との連携・協働と、トラスト活動を支援する法制度の整備を進めるために、できるかぎりのことに挑戦していく覚悟です。



# 森は海の恋人 人の心に木を植える



NPO法人 森は海の恋人 理事長 畠山 重篤 氏

私は、宮城県の気仙沼湾で主にカキの養殖をしている一漁師ですが、30年前にカキを育てるには海だけでなく、川やその流域の環境が大事だと気づき、漁師仲間と上流の山に落葉広葉樹の森づくりを開始しました。名付けて「森は海の恋人運動」です。

カキは淡水と海水の混ざり合った汽水域で育ちます。カキの漁場の上流には、どこにも豊かな落葉広葉樹林からできた腐葉土と豊富な鉄資源が眠っていることがわかりました。著名な先生によると、鉄は腐葉土中で作られた物質と結合して栄養素の吸収に役立つそう



で、こうした要素のそろった海は大変豊かになるそうです。日本は富士山という、マグマからできた鉄の塊があります。その湧水のある柿田川の植物が元気なもの、富士山の鉄の恵みがあるからだと思います。

東日本大震災で壊滅的な大被害を受けた時、人生これで終わりだと思いました。しかし京都大学の

先生方が来てプランクトンの調査をしてくれた時、「畠山さん、大丈夫です。カキが食べきれないくらい植物プランクトンがいます。これは『森は海の恋人』の勝利ですね。」とおっしゃいました。私たちの活動は正しかった。

日本は多くの川が流れる国です。川を自然の状態に近付け、その流域の人がそれを意識すれば日本の生態系は大丈夫です。小さい頃からそうした意識を持てるよう、子どもたちに自然体験をさせていくことが必要だと考えています。



舞根湾



今年は記録的な猛暑で、皆さんご存知のように、あらゆる生物がダメージを受けていると思います。国連の気候変動に関する政府間パネルが発表しましたが、産業革命以前から今日まで気温が1℃上がっています。今後10年間に0.2℃ずつ気温が上がっていき、早ければ2030年にも世界の平均気温は1.5℃上昇するそうです。そうすると、昆虫の6%、植物の8%の種が生息域の半分以上を失い、サンゴは70～90%が死滅すると言われています。こういうことについて、皆さんにもっと真剣

に考えてほしいと思います。地球温暖化についてマスコミがよく取り上げていますが、私は関係ない、ではなくて、地球の環境はもうお尻に火がついている状態であることをよく考えなければならない。これは人間がやったことだから、人間に責任があるんです。

皆さんも、トトロのふるさと基金の安藤さん、いろいろ十二潟を守る会の山崎さん、畠山さんからの本日のお話を糧にして、トラスト運動を進めてもらいたいと思います。畠山さんがおっしゃったように、ただ個々の森、湖、川を守

閉会挨拶

(公社)日本ナショナル・トラスト協会  
副会長

漆畑 信昭

るためではなくて、マクロ的な考えで進めていけば、日本のトラスト運動ももっとよい形で進んでいくのではないかと思います。

本日は、遠いところ、長い時間、どうもありがとうございました。

## 第二部

### 交流会

第二部の交流会は、各地のトラスト団体の関係者や協賛企業、支援者の皆様など71名の参加がありました。冒頭、池谷会長による閉会挨拶と、2018年に50周年を迎えた「妻籠を愛する会」の藤原理事長に乾杯のご挨拶をいただきました。その後、各地のトラスト団体や関係者の皆様からの近況報告と、韓国各地でトラスト活動等に取り組む18人から成る「韓国ナショナル・トラスト協議会」の皆様からのご挨拶をいただきました。参加者同士の情報交換や交流も活発に行われ、盛会のうちに終了しました。







韓国ナショナル・トラスト協議会の皆様



近況報告をいただいたトラスト団体(50音順)

- NPO 法人 愛宕山てっぺんの森を守る会
- NPO 法人 いいろこ十二淵を守る会
- (公財) 柿田川みどりのトラスト
- (公財) かながわトラストみどり財団
- (公財) 鎌倉風致保存会
- (公財) 埼玉県生態系保護協会
- (公財) さいたま緑のトラスト協会
- (公財) 妻籠を愛する会
- (公財) 天神崎の自然を大切に作る会
- NPO 法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会
- (公財) トトロのふるさと基金
- (公財) 日本生態系協会
- NPO 法人 富士山ナショナル・トラスト



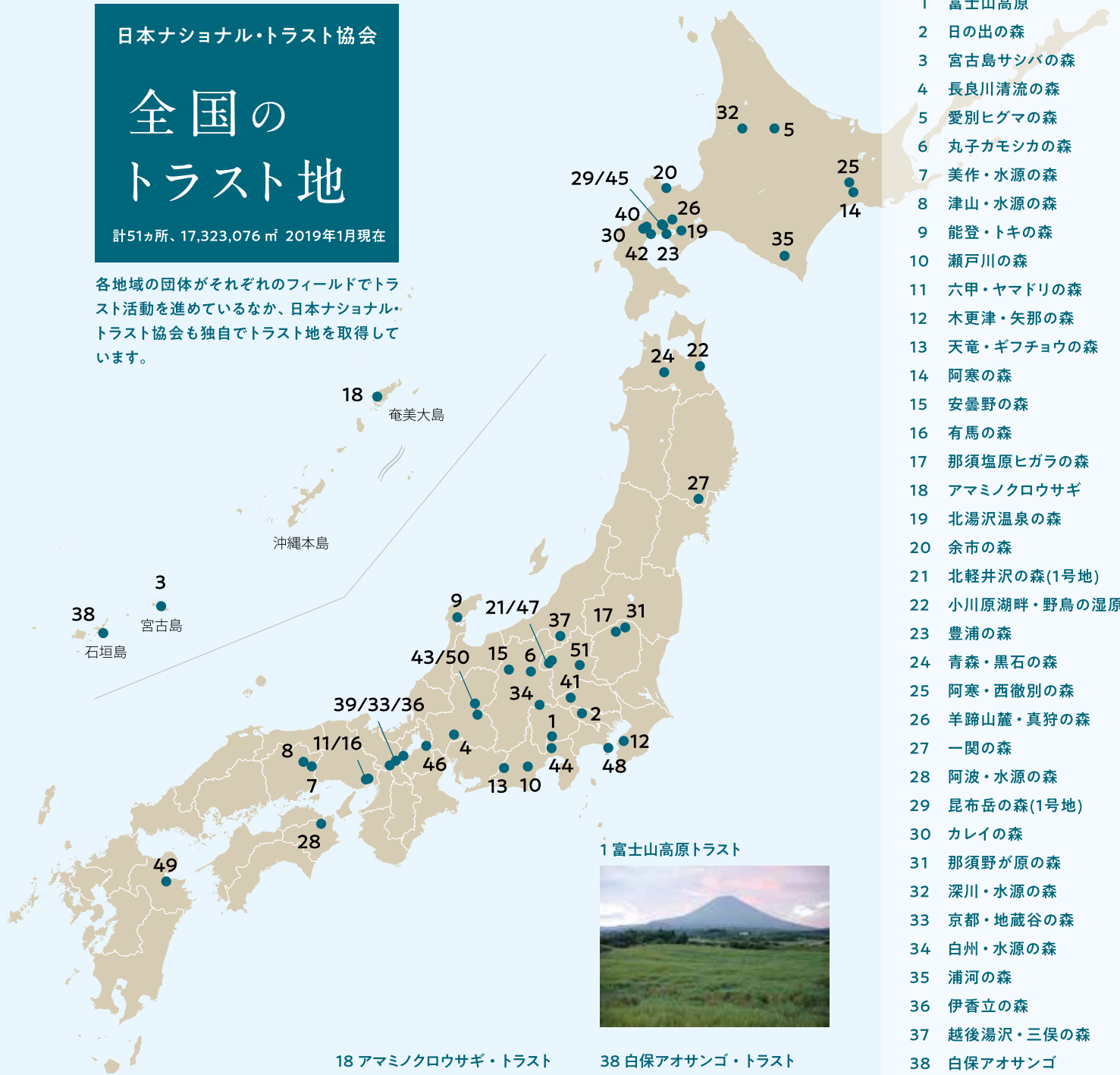
公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会  
 〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル  
 Tel.03-5979-8031 Fax.03-5979-8032  
 2019年1月発行 禁無断転載

日本ナショナル・トラスト協会

# 全国の トラスト地

計51カ所、17,323,076㎡ 2019年1月現在

各地域の団体がそれぞれのフィールドでトラスト活動を進めているなか、日本ナショナル・トラスト協会も独自でトラスト地を取得しています。



- 1 富士山高原
- 2 日の出の森
- 3 宮古島サシバの森
- 4 長良川清流の森
- 5 愛別ヒグマの森
- 6 丸子カモシカの森
- 7 美作・水源の森
- 8 津山・水源の森
- 9 能登・トキの森
- 10 瀬戸川の森
- 11 六甲・ヤマドリ
- 12 木更津・矢那の森
- 13 天竜・ギフチョウの森
- 14 阿寒の森
- 15 安曇野の森
- 16 有馬の森
- 17 那須塩原ヒガラの森
- 18 アマミノクロウサギ
- 19 北湯沢温泉の森
- 20 余市の森
- 21 北軽井沢の森(1号地)
- 22 小川原湖畔・野鳥の湿原
- 23 豊浦の森
- 24 青森・黒石の森
- 25 阿寒・西徹別の森
- 26 羊蹄山麓・真狩の森
- 27 一関の森
- 28 阿波・水源の森
- 29 昆布岳の森(1号地)
- 30 カレイの森
- 31 那須野が原の森
- 32 深川・水源の森
- 33 京都・地藏谷の森
- 34 白州・水源の森
- 35 浦河の森
- 36 伊香立の森
- 37 越後湯沢・三俣の森
- 38 白保アオサンゴ
- 39 京都・嵐山の森
- 40 歌才湿原
- 41 両神山
- 42 静狩湿原
- 43 下呂の森(1号地)
- 44 富士宮の森
- 45 昆布岳の森(2号地)
- 46 彦根の森
- 47 北軽井沢の森(2号地)
- 48 若芽の里
- 49 由布の森
- 50 下呂の森(2号地)
- 51 赤城山麓の森

1 富士山高原トラスト



18 アマミノクロウサギ・トラスト



38 白保アオサンゴ・トラスト



39 京都・嵐山の森トラスト



40 歌才湿原トラスト



41 両神山トラスト





# 信託で守る ナショナル・トラスト

信託とは、英語で“トラスト”——  
三井住友信託銀行では  
信託を通じ、トラスト地の購入を支援しています。



# JAPANESE CULTURE TO NEXT

## 建築文化を次代へ継ぐ。

竹中工務店に1913年から7年にわたり在籍した建築家 藤井厚二（1888-1938年）が1928年に建てた自邸「聴竹居（ちょうちくきょ）」（京都市大山崎町）。

「日本の住宅」の近代化を図り、日本人の感性に合う

きめの細かい設計上の配慮が散りばめられたこの住宅は、

1999年 DOCOMOMO JAPAN（モダニズム建築20選）に選定。

さらに2017年夏に国の重要文化財に指定されました。

竹中工務店はこれからも歴史的建築物の保存、再生、活用など建築文化の継承に積極的に取り組んでいきます。

※「聴竹居」は株式会社竹中工務店が所有し一般社団法人聴竹居倶楽部が日常の管理運営をしています。

想いをかたちに 未来へつなぐ

 TAKENAKA

株式会社 竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-13 Tel.06-6252-1201  
〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 Tel.03-6810-5000

竹中工務店 聴竹居 重文

検索

<http://www.takenaka.co.jp/newslog/2017/05/01/index.html>

